



次世代リーダーの育成

# 碧樹館プログラム

Developing Next Generation of Leaders

HEKIJYU SCHOOL

# KAIL

THE KYUSHU-ASIA INSTITUTE OF LEADERSHIP

# 碧樹館プログラム

将来の経営を担う次世代のリーダーを養成する

## ▶ プログラムで目指す人財創り



理事長兼塾長  
橋田 紘一

### プログラムへの思い

もとより九州は日本の要である。古来大陸と南洋の合流点に位置する異文化の坩堝(るつぼ)という地の利が、人々の遺伝子を鍛え上げた。シルクロード文化の集積地、邪馬台国、万葉の時代は筑紫国、そして近代に至るまで我が国の要衝として独自の風土と人を育み、常に日本を動かす人材の宝庫となってきた。九州が生んだ歴史的要人は枚挙に違がない。新たな世界を切り拓くとき、必ずそこに九州出身のリーダーがいた。その遺伝子を受け継ぐ我々は、これを世に波及させるべく、平成16年、最新の知恵を集結し「変革と創発」のプログラムを練り上げた。それは、経営者やリーダーが持つべき確固たる志や価値観の涵養と変化の激しい時代を切り拓いていく為の知恵の享受を核とするものだ。今後一段とグローバル化が進展する中では、新しい状況を自らの頭で理解し、自らで考え、問題を解決することが今まで以上に求められる。塾生は、ここで人生の北極星を定めるが、プログラムはその為の海図と羅針盤を与える。これを通して掴む「志とネットワーク」を糧に、KAIL、九州を発信基地として、アジアそして世界へ、自信を持って羽ばたいてほしい。

## ▶ プログラムの設計



アイ・エス・エル創設者  
野田 智義氏

### 碧樹館プログラムは、特定非営利活動法人アイ・エス・エル(ISL)の「戦略的リーダー養成プログラム」をもとに設計されています。

人間の営みが創り出してきた歴史の積み重ねや世界のあり様に敬意を持ち、その中に自らの夢や志を重ね、より良い社会、企業、組織の実現に向けて、勇気と情熱を持って行動する。人の共感を呼び起こし、社会や組織に一石を投じ、まだ見ぬ未来を現実へと変えていく。行動にあたって揺るがない軸を持ち、行動を通じて使命感を育む。これが、プログラムが意図するリーダー像です。スキルや知識偏重の欧米ビジネススクール流の経営者教育でもなく、流行のアクションラーニングでもなく、知識人のための教養講座でもなく、さらには巷間にあふれる自己啓発セミナーでもない。それが私たちが目指す「日本発」「世界初」の全人教育のアプローチです。野性的かつ先進的な碧樹館プログラムから、次世代の日本、さらにはアジアを担うリーダーが輩出されることを、心から願っております。(ISL:Institute for Strategic Leadership)

## ▶ プログラムの特徴



プログラム・ディレクター  
隈本 直樹氏

### 時代の「今」と向き合い、自らに問い合わせ続ける11ヶ月間

『碧樹館プログラム』は、塾生一人一人が時代を担う者として、「世界・社会の今と向き合い」、「創造と変革」を現実のものとするため、自らに問い合わせ続ける11ヶ月間に渡る「リーダーシップの旅」とも言えます。

リーダーである前に、一人の人として「如何に生きるか」、非連続な日常があたりまえになった時代に「見えないものを見る力」とは何か。来るべき未来を描き、覚悟と情熱を持って、現実のものとする「人間力」とは何か。

各界の最前線でリーダーシップを発揮されている経営トップや専門家の方々を中心に、KAILの想いに賛同を頂き、方向性を同じくする国内外の多数の講師の方々にご登壇頂きます。塾生が講師の方々の視座・知見と自らを重ね合わせながら、それぞれが得た気づき・学びを「現実の知恵」へと変える、それが『碧樹館プログラム』です。

## 碧樹とは

「碧樹(へきじゅ)」という言葉は、禅語の「清流無間断 碧樹不曇凋:清流(せいりゅう)間断(かんдан)無(な)く、碧樹(へきじゅ)曾(かつ)て凋(しば)まず」に由来しています。これは、清らかな流れは絶えることなく、常緑樹の青さも衰えることがないことを表し、求める心を堅固に持ち続けることと不断に努力することの大切さを強調するために用いられる言葉です。常に変わることなく生き生きとした青さを保ち続けている「碧樹」に象徴されるのは、完成に向かって我々が等しく持つべき努力する心です。「碧樹館プログラム」では、そのような心を持った、行動できる次世代のリーダー群を輩出したいと考えています。

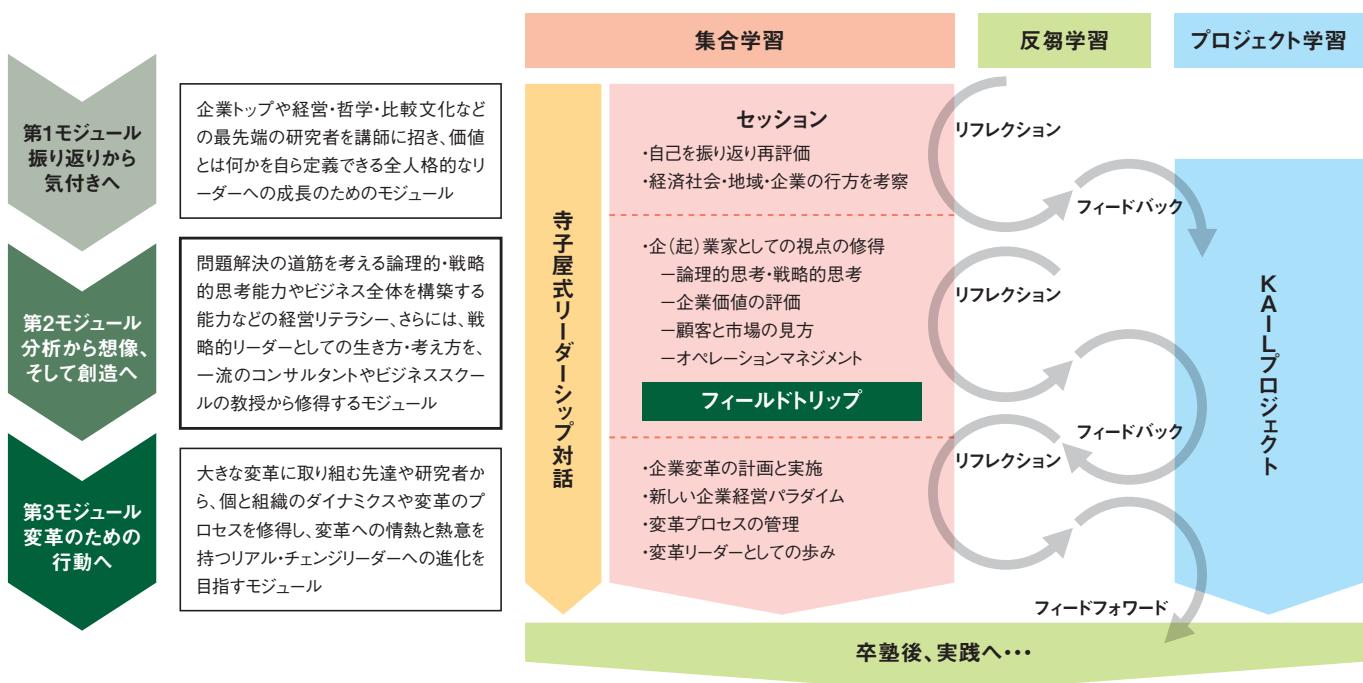
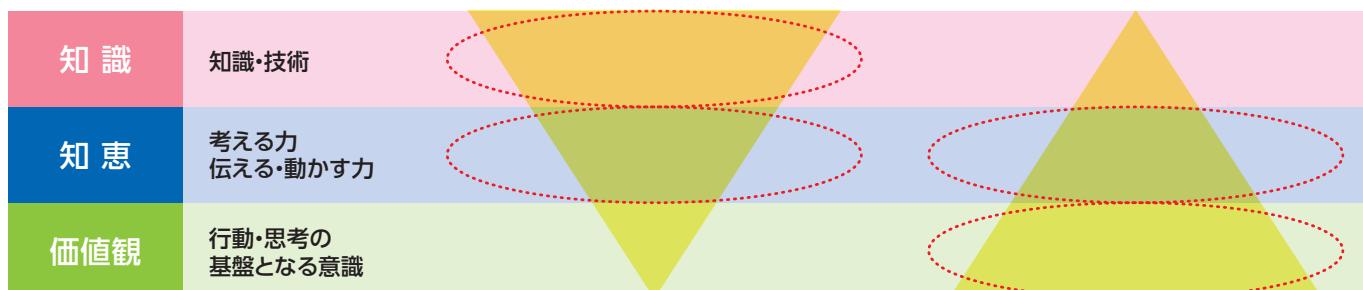
## ▶ プログラムの構成

- 約11カ月間 隔週週末(土・日)業務継続型のリーダーシップ教育
- 合計約230時間の研修時間 定員36名

### 【フレームワーク】

#### 大学ビジネススクール(MBAコース) ビジネス・プロフェッショナルの育成

#### 九州・アジア経営塾(碧樹館プログラム) 次世代ビジネスリーダーの育成



## ▶ 3本柱で展開される学習

### ■ 集合学習

- セッション：講義と塾生同士の討議を通じて、自らの知恵の醸成を目指します。
- 寺子屋式リーダーシップ対話：各界のリーダーの経験談を伺い、対話をすることで、自らの志を磨きます。
- グループ学習：各モジュールにおいて6名単位のグループを編成し、常に学びを共有し、互いに切磋琢磨することを通じ、更なる視野の拡大・思考の深化を図ります。モジュールが切り替わる際に編成を組み替え、新たな刺激を喚起します。

### ■ 反芻学習

- 各セッションや寺子屋対話の事前・事後に、学習効果を高めるための反芻(内省・克己)時間をとります。それに加えて、
- 各モジュールの締めくくり時期においては、気づき・学びの全体を振り返る時間を取ります。表層的な学びに終わらせる事のない、自分自身の現在位置を見定め、次へのコミットメントを高めることで、学習効果の最大化を図ります。

### ■ プロジェクト学習

- KAILプロジェクト：所属組織全体のあり方を望ましく変革するための処方箋を、気鋭の経営コンサルタントをパートナー・助言者としつつ塾生自らで描き、その実現への動きを始める事で、KAILの学びを現実に落としこみます。

# セッション

人が人を磨き、相互に学び合う場



「聞く力」、「攻守のサイクル」マネジメント

井上 潤吾氏  
ボストンコンサルティング グループ  
マネージング・ディレクター＆シニア・パートナー



Omni Channelのプロが伝授する  
これからのマーケティング戦略

奥谷 孝司氏  
株式会社顧客時間 共同CEO／取締役  
岩井 琢磨氏  
株式会社顧客時間 共同CEO／代表取締役



現場力を鍛える

遠藤 功氏  
株式会社ローランド・ベルガー 会長



AI時代のビジネスモデル

最首 英裕氏  
株式会社ブルーヴノツ 代表取締役社長



**人が育つ会社をつくる  
～人材100年時代の働き方と人材育成～**

高橋 俊介氏

慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究院 特任教授



**未来洞察ー時代の  
ターニングポイントを見据え、  
大きな戦略眼を育てるー**

田村 大氏

株式会社リ・パブリック 共同代表



**「会計・財務の基礎を理解する」  
「事業創造についての市場の論理を  
理解する／事業創造を数字で表す」**

西山 茂氏

早稲田大学ビジネススクール 教授



## 問題解決力と人間力強化法

斎藤 顕一氏

株式会社フォアサイト・アンド・カンパニー 代表取締役／  
一般社団法人問題解決力検定協会 代表理事



**経営を俯瞰し、  
経営者としての意思決定を体験する**

星野 裕志氏

九州大学大学院経済学研究院



**戦略的思考としての  
「社会システム・デザイン」**

横山 穎徳氏

社会システムズ・アーキテクト／東京大学エグゼクティブ・  
マネジメント・プログラム(東大EMP)企画推進責任者／  
県立広島大学経営管理研究科(HBMS)研究科長



## 転換期の中国経済に立ち向かう 日本企業のチャンスと課題

瀬口 清之氏

一般財団法人キヤノングローバル戦略研究所 研究主幹



**ゲーム理論経営と資本主義の再起動**

安田 洋祐氏

大阪大学大学院経済学研究科 准教授

# 寺子屋式リーダーシップ対話

各界を代表するリーダーとひざを突き合わせ、語り合う「場」

第一線で活躍する国内外のリーダーの経験談を聞くだけでなく  
対話をすることで、より深く先達の哲学に触れ、  
自らの基軸を創り上げます。



九州から日本を動かす。  
Move Japan forward from 九州

麻生 泰氏  
一般社団法人 九州経済連合会 会長／  
株式会社麻生 代表取締役会長／  
麻生セメント株式会社 代表取締役会長



Just Do It!

鎌田 由美子氏  
株式会社ONE・GLOCAL代表取締役・  
クリエイティブディレクター



だれもが何度もやり直せる社会をつくる

川口 加奈氏  
認定NPO法人 Homedoctor 理事長



ぶれない価値観とは何か

小宮 一慶氏  
株式会社小宮コンサルタンツ 代表取締役



世界は広い、そして人間は素晴らしい  
～一人でも多くの人に光を!貧困に苦しむ  
人々を救う「赤ひげ先生」～

服部 匡志氏

日本国際眼科病院 教授／アジア失明予防の会 事務局長



組織を越えたつながりによる「共創」  
～大企業若手・中堅有志コミュニティ  
「ONE JAPAN」の挑戦～

瀬松 誠氏

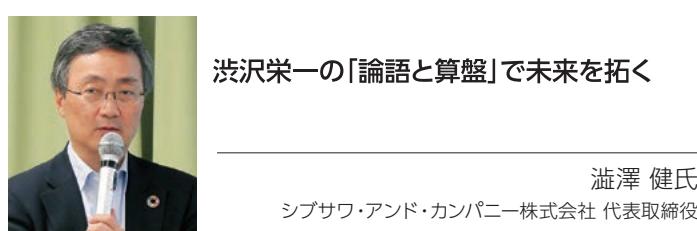
ONE JAPAN共同発起人・共同代表



急速に成長するアジアの新たなジレンマ

マハティール・ビン・モハマド氏

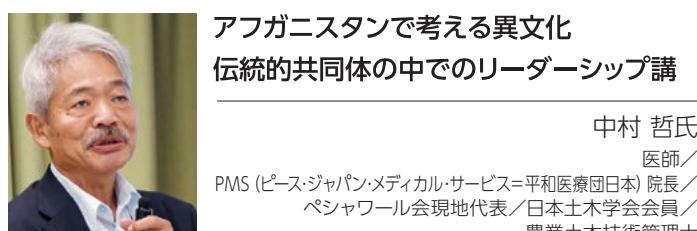
マレーシア首相



Jリーグにおける「個の育成」と「組織開発」

村井 滉氏

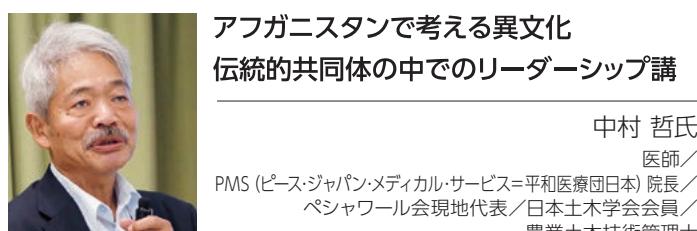
Jリーグ チェアマン／日本サッカー協会副会長／  
日本プロスポーツ協会理事



世界とつながる地元創生起業  
～One Kyushu(九州を一つの地域／マーケットと  
捉えた概念)の可能性についての考察

村岡 浩司氏

株式会社一平ホールディングス 代表取締役社長



「途上国から世界に通用するブランドをつくる」  
マザーハウスの理念をベースとした組織文化を  
つくるアクションとは?

山崎 大祐氏

株式会社マザーハウス 代表取締役副社長

# KAILプロジェクト

自らが企業変革の処方箋を描く／九州の未来を考える

## ■ KAILプロジェクトとは…

「碧樹館プログラム」の柱となる学習手法です。毎回のセッションを通じて培われた、社会や経済を取り巻く環境へのより深い理解と未来への洞察をベースに、個々の塾生は課題意識を育みます。そして、塾生は、自らの所属する企業・団体が直面する戦略的課題を設定した上で深掘りし、全社的な視点に立って、価値創造、更には企業変革という観点から処方箋を描くと共に、各自の行動計画を作成します。一定レベル以上のKAILプロジェクトの成果を挙げることが、KAILの卒塾要件になっています。

## ■ KAILプロジェクトの進め方

塾生は、パートナー（現役のコンサルタントなどのプロフェッショナル）1名に対して塾生3名の割合で組成されるチームに所属して、パートナーの指導を受けつつ、互いに切磋琢磨しながらKAILプロジェクトを進めていきます。また、企業・団体の戦略的な課題により密着するため、「メンター」と呼ばれる塾生の上司（多くは役員クラス）をアサインすることも、多く行われています。

### 成功の鍵(KFS:Key Factors for Success)

#### 三者のコミットメント

- ・塾生の「何を、なぜ実行したいか」という強い思い
- ・派遣企業・団体のトップ層や上司（メンター）からの「期待とアドバイス」
- ・パートナーの「指導」およびKAILからの「プロジェクト進捗管理」

#### 塾生内部のデザイン

- ・必要性(すべきこと)
- ・意思(やりたいこと)
- ・実現性(できること)



### KAILプロジェクトプロセス

#### 第一モジュール

#### 第二モジュール

#### 第三モジュール

各モジュールでの学び(価値観、手法)を活用しながら、実施

##### ガイダンス

##### 第一回会合

##### 第二回会合

##### 第三回会合

##### 第四回会合

現状分析と問題の抽出

問題意識の共有

戦略と処方箋を耕造化

実行プランと現実性のチェック

ファイナルプラン完成へ

実践へ

※塾生は、会合と会合の間にも、電話・メールで、担当パートナーと密接に連絡を取り、各自のプロジェクトを改善・肉付けしていきます。

※仮説と検証の繰り返しにより、自らの固有解を導く力を鍛えます。

## ▶ 担当パートナーより



## KAILプロジェクトはビジネスの「型」、ビジネスロジック(事業論理)を学ぶ場。

私のKAILプロジェクトで学べる一番のこととは、ビジネスの「型」を覚えるということです。具体的には塾生が各自の問題意識を精錬し、解決の切り口を発見していく過程において、どうやって考えるのか、どのように課題をとらえて構造化していくのか、解決に向けてどうすればいいのか、そのインパクトはどれくらいなのかを学びます。それはゼミ形式でのミーティングの他、電話やメールのやりとりも含め、私との接触時間を増やし、OJTに近い形で問い合わせ、学んでもらっています。塾生には、ぜひ「考えること」が苦しいことであり、かつ、楽しいことでもあると思えるように、成長に向けて一皮剥けてほしいと願っています。育った企業の環境、形態にもありますが、往々にして人は井の中の蛙になり、違う業種や世界が見えなくなるものです。KAILプロジェクトのパートナーとして、その壁を横から壊す、そして、他社、他業種、他国はこうしている、あるいは新しい時代はこうあるべきだと、時間、空間を超えて新しい視点を提供し、刺激を与えるのが私の役割だと思っています。私自身は、九州福岡で生まれ育ちました。心のよりどころとして、強い思い入れを持っています。今、仕事は東京が中心ですが、故郷九州の成長・発展のために、私も一肌脱ぎたいと考え、KAILプロジェクトのパートナーに志願しました。塾生の皆さんのがんばりに寄与できたら幸いです。

井上 潤吾氏

ボストンコンサルティンググループ  
マネージングディレクター&シニア・パートナー

## ▶ 塾生の声

## 13期生

## 坂田 祐司氏(エコー電子工業株式会社)

執行役員(東京支店)

プロジェクトでは、「組織改革 社員が働きがいを感じる組織作り」をテーマとしました。海外の投資家も、投資先企業に「従業員の生活水準向上」を求めており、企業が従業員の能力開発や生活水準の向上に積極的に投資しているかを注視するようになってきています。従業員が幸せに働いているかどうかが、企業の成長を左右するようになってきたからだと思います。取り組みでは、部門の組織的な課題(働きがいを阻害する要因)が“コミュニケーション”にあることを真因として特定し、施策をまとめていきました。その過程において、課題の真因をファクト分析(様々な事象や事柄)により特定し、さらに社内アンケートとそのフィードバックを繰り返し行っていました。プロジェクトを通して、経営には、「戦略のマネジメント」「オペレーションのマネジメント」「コミュニケーションのマネジメント」が必要なことを学びました。これまで「戦略のマネジメント」ばかりに注力していましたが、「コミュニケーション」の重要性を理解できたこと、それをうけて具体的な「オペレーションのマネジメント」に踏み込むことができたことが非常に大きいと感じています。今後も、現場との対話(共有とフィードバック)を繰り返し行いながら実行していきたいと考えています。

※ご所属およびお役職は、ご登壇時のものです。

## ■ KAILプロジェクト担当パートナー

アクセンチュア株式会社

エム・アイ・アソシエイツ株式会社

有限会社安部アソシエーツ

エム・アイ・コンサルティンググループ株式会社

EYアドバイザリー・アンド・コンサルティング株式会社

エム・アイ・パートナーズ株式会社

株式会社イグレックSSDI

ガイアマネジメントコンサルティング有限会社

イケガミ・アンド・カンパニー株式会社

株式会社構造計画研究所

石川浩之税理士事務所(KT-Solutions)

株式会社コーポレイティディレクション

株式会社イズモ

株式会社産学連携機構九州

株式会社イマージェンス

株式会社方円社

株式会社ウイルプレイン

株式会社ボストンコンサルティンググループ 他

# 塾生の声・派遣企業の声・修了証書

変革リーダーとしての本当の挑戦は、  
プログラムの修了後からスタートします。  
企業や社会にとっての新しい価値を創造する過程には、  
幾多の困難が待ち受けています。  
塾生は碧樹館プログラムで見つけた  
「ぶれない基軸」を胸に、歩み続けます。

14期(2017年~2018年)

笠 清太氏 株式会社三好不動産 執行役員経営戦略室室長



KAILでの学びは自らの足りない部分が俯瞰図の様に気が付いたことです。これまで様々な研修を受けさせて頂きましたが、入塾中の11ヶ月間は自らに問い合わせることが多かったように記憶しております。そして、何より自らの役割が、自覚できたように思います。

卒塾後もKAILプロジェクトの担当パートナーとのOB会など、様々な新たな気付きの場もあり、継続的な学びの繋がりにもなっております。

当社としては、小職が初めての企業派遣となりましたが、それ以降は、毎年KAILに受け入れて頂いております。

社内の取り組みとしましては、KAILプロジェクトを参考に次世代育成プロジェクトが発足しました。1年間のゼミ形式で、新規事業や業務改善の取り組み提案書にまとめ、役員会に提案し、承認されれば、その事業を実行できるというプロジェクトです。

KAILで学んだことを如何に実践し続けることができるのかを意識しながら、これからも自然体で学び続けたいと思います。

14期(2017年~2018年)

村上 恵美子氏 北九州市 環境局環境国際経済部事業化支援担当課長



KAILでの1年は、自分自身の原点を見つめなおし、新たな1歩を踏み出す一年であった。キャリアを積みながらも、日々の多忙な業務の中で、忘れていたかもしれないこと、自分にできていること、できていないことを冷静な目で見つめ、自分の目指すものを再確認し、それに向かっていく熱い思いを取り戻す一年でもあった。

これは、これまで生きてきた道や価値観の異なる同期35人と切磋琢磨し、意見をぶつけ合いながらも、「変革の時代のリーダーとしての道を見つける」という志を一にする同志がいたからこそである。

KAILを卒塾して、碧樹の一枝として、豊かな森となるよう、さらに精進していきたい。

## 15期(2018年~2019年)

河野 雄彦氏 西部ガス設備工業株式会社 常務取締役



『自分ゴト』これは今、常に意識しているワードである。「自分や周囲の人たちを取り巻く諸問題を、他人ゴトとして評論家のように評価・批判するのではなく、自身の問題として受け止める」ことを指す。KAILでは常に、一人称として発言することを求められ、その解を考え抜くうちに、「私ならどうする。」といった、自分ゴト思考が培われていく。入塾前の私は何事にも受け身で、周りに安易に流されがちであった。しかし、KAILでの講師陣からの鋭い問い合わせと熱いメッセージ、事務局の献身的サポート、そして、互いに磨き合った同期の仲間たちから刺激を受け、私は「志とは何か」「自分なりのリーダーシップを如何に發揮するか」を考え抜き、自分の言葉で語ることができるようになれた。そして今では、「周りはこう言うが、自分はこうしたい」と明確に言える。これからの未来は、未知に包まれ、不安定さも増していくかもしれない。だが、そのすべてを自分ゴトとして受け止め、自分の意思で駆け抜けて行く。

## 15期(2018年~2019年)

富弥 浩行氏 九州電力株式会社 コーポレート戦略部門 経営戦略グループ 課長 兼 社長室 課長(経営政策担当)



「自責の心」と「利他の心」こそ、リーダーシップの要諦である。私がKAILで感じ取ったことは、ここに収斂される。著名な講師陣からの魂が込められたメッセージや、業種や立場が異なる36名の塾生による真剣な議論は、自らの価値観を見つめ直す契機となった。そうして自問自答を繰り返すことが思考の深化につながり、それまでぼんやりとしていた自らの基軸をはっきりと意識できるようになったことは貴重な経験である。九州・アジアの未来のために、一歩を踏み出し、変革に挑戦し続けることこそ、私の使命だと考えている。そして、それを実践するためには、リーダーとしての「自責の心」と「利他の心」が不可欠である。Think Big → Start Small → Scale Fastを心掛け、変革する個人から、変革する組織、そして変革する企業へと展開していきたい。

## 修了証書(Graduate Diploma)の授与

碧樹館プログラムの全課程の修了後、  
次の3つの条件を満たす塾生に対して、修了証を授与します。



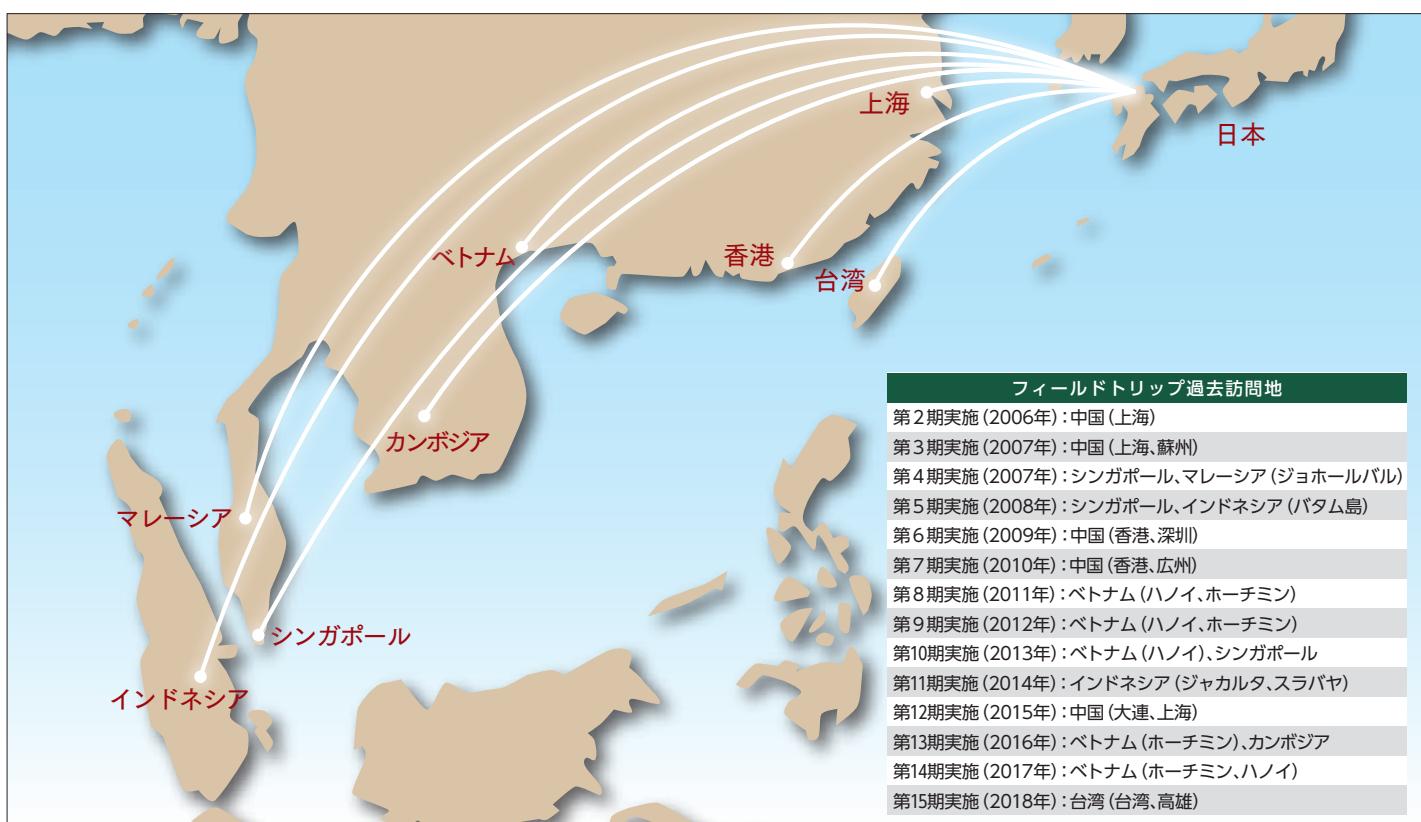
- (1)セッションおよび寺子屋式リーダーシップ対話への75%以上の出席を満たすこと
  - (2)リフレクションペーパー、フィードバックペーパー、リフレクションシートを提出すること
  - (3)KAILプロジェクトのファイナルプランの提出を行い、担当パートナーからそのプランに対する承認を受領すること
- 本修了証は公式の学位記ではありませんが、約1年間にわたるプログラムへの参加を完遂した証しとして、また、さらなるリーダーへの成長の一里塚としてKAILを位置付けていただくことを願い、授与するものです。

# Field Trip to Asia

アジアから見た九州・日本を考え、語り合う旅

## ■ 概要

目覚ましい躍進を続けるアジア諸国。私たちと同時代を生き、活躍するビジネス・パーソンは、何を基軸とし、どのようなビジョンを持ち、日々のビジネスに対峙しているのでしょうか。また、現在の九州、日本をどのように見ているのでしょうか。企業を牽引するアジア諸国のリーダーや、異文化の中で新たなビジネスを構築する日本人リーダー。アジア諸国を舞台に活躍する彼らの経営観、価値観に触れ、議論を通して、塾生が新たな自己成長の機会を得るとともに現在の自分、組織、九州、日本、アジアを客観的に考察して、将来の姿を構想します。



## 第15期実施：台湾（台北、高雄）（2018年11月12日～11月16日）

### 主な講師の方々

徳光 重人 氏	日勝生加賀屋國際溫泉飯店股份有限公司 董事
星野 光明 氏	日本台灣交流協會台北事務所 副代表
Mr. Peng	睿能創意股份有限公司(英語名:GOGORO Inc.) グローバルマーケティング 副社長
鄭 惠如 氏	食藝餐飲有限公司 執行長
謝 永昌 氏	晟田科技工業股份有限公司 董事長
陳 弘偉 氏	永記造漆工業股份有限公司 総經理

など



華南銀行セッション



加賀屋セッション

### フィールドトリップを終えて 塾生の感想

- ・今回のFTTAの共通のメッセージとして「誠実にビジネスを行うこと」「環境の変化に対応すること」「持続可能な企業とすること」を大切にすべきであると感じた。
- ・フィールドトリップの時に台湾の若手実業家に『日本人は現状に満足している』事を指摘され、大きな衝撃を受けた。この気づきから以下の事を意識して自分自身に変化を起こしていきたい。  
『リミッター解除』…本当にできないのか?思い込みではないのか?を自分に問うこと  
『健全な自己主張』…自身の強みを磨き、世の中に役立てる主張を持つこと  
『違いを受け入れる』…『違い』を“学び”に変える懷を持つこと
- ・登壇された方が皆、自分のことをよく理解し、何をしたいのかしっかりととした軸を持っていた。私は自分が今後何をすべきか焦っていろいろ手を出しきっていたような気がする。今一度自分のことをよく理解し、天命が何かを考え地に足をつけてしっかりと自分の痕跡を残していく。
- ・雇用に関して台湾は、日本のように終身雇用という考え方ではなく、社員一人一人が自己的スキルアップに努め、そのスキルで自らが勝負をしていることにエネルギーを感じた。現在の日本に元気がないのは、終身雇用制度により、企業に守られているような安心感を持っているため、自ら行動することの必要性が薄れてきている。自分の行動について、その目的、必要性を問いかけ続けたい。それによって、自分の立ち位置と、これから起こす行動を明確にして前進していきたい。

## 第14期実施：ベトナム（ホーチミン、ハノイ）（2017年11月26日～12月2日）

### 主な講師の方々

佐々木 進伍 氏	ジェトロホーチミン事務所 NNR Global Logistics(VN)Co.,Ltd.
上野 延寿 氏	代表取締役社長
白井 尋 氏	フーンライ・オーナー サイゴン日新塾・代表
レ ロンソン 氏	良知コミュニケーションパートナーズ 代表
山崎 政男 氏	ESUHAI 代表取締役社長
佐藤 栄一 氏	TOTO VIETNAM Co.,Ltd. General Director
勝 恵美 氏	スターロータス 代表
Mr.Do Ngoc Hoang (ドー・ゴック・ホアン氏)	モアプロダクション CEO・Chief Producer
山本 昌弘 氏	FPTソフトウェア 最高人事責任者(CHO)
小松 みゆき 氏	(ドー・ゴック・ホアン氏) パナソニックベトナム 取締役 ベトナムの声放送局 シニアアドバイザー

など



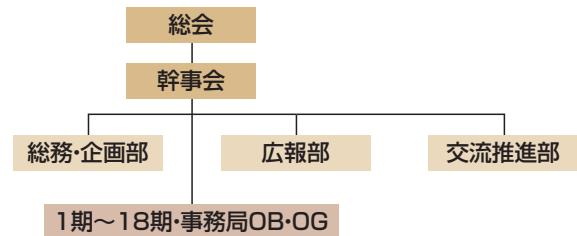
VJCCセッション

### フィールドトリップを終えて 塾生の感想

- ・ベトナムと日本で市場は違えど、個人ベースでやることは“考えて実践すること”しかないと感じた。色々考え過ぎる前に実践することに重きを置いて行動したいと考えている。  
また、働くことの喜びや目的をもう一度見つめ直したいと感じた。当たり前のことを当たり前と捉えるのではなく、チームで取り組んだことの成果(成功も失敗も含めて)に対してもっと一喜一憂したいと思った。
- ・ベトナムという異国での活躍している各代表の方々の判断基準や悩みを共有でき、それぞれの基軸の強さを強く感じた。異国の地で活躍するビジネスパーソンは部下などを一切帯同せずに殆んどが一身でベトナムに乗り込み、自身の決断により企業を采配しており、日本の親会社の採決には全く頼っていない。それは社長自身が強い責任感を持っているのと同時に自身の中に確固たる基軸を持っているからだと思う。最終的には異国の中であろうとも、事業で成功を収める為には、地元社会に貢献することでその企業の価値を認めてもらうことが先決であるとあらためて認識した。

### 塾での経験値をさらに高め、人財の森をつくる

卒塾生は「塾での経験を糧とし、自らが目指すリーダー像を体現すべく自律的な努力を続けること」と「卒塾後も、互いの交流を通じ、さらなる自己成長の糧を得ること」を通して、塾での経験価値をさらに高めることを目的に、碧樹会(同窓会)活動を行っています。当塾ではその活動を支援しています。



#### 多様な碧樹会活動

「学びの場の継続」「人的ネットワークの深化」「社会への恩返し」をバリューとして、幹事会で企画を考え、以下のような活動を行っています。

<b>総 会</b>	每年1回卒塾生が集まり、卒塾期や企業の枠を超えた人的ネットワークを構築し深化させます。また、1年間の活動の振り返りと、翌年の活動計画を話し合います。	
<b>碧樹会セッション</b>	経営者の立場となった卒塾生や財界から経営者を講師に迎え、その経験を共有するセッションを行います。卒塾後もネットワークを通じて学び続ける機会を創出しています。	
<b>フィールド・トリップ</b>	学びを深める視察研修を行っています。これまで八丁原地熱発電所、武雄図書館、関門橋と関門トンネル、旭酒造とニッカウヰスキーなどを視察しました。平成30年は沖縄県を訪問し、活況を呈する沖縄経済を体感しました。	
<b>社会への恩返し</b>	卒塾生一人ひとりが自組織内でリーダーシップを発揮するとともに、新しい時代を担う若手のビジネスパーソンや学生を対象にKAILでの学びを還元する活動を行っています。(写真は、若手リーダーを対象としたイベント風景)	

#### 碧樹会への思い



碧樹会会長  
神山 勝司  
(6期生)

九州電力株式会社  
TS統括本部  
DX推進本部  
DX推進部長

碧樹会は、九州・アジア経営塾(KAIL)の卒塾生らが、相互研鑽を継続し、もって社会へ『ギフトを返す』人財の森となることを目的とした同窓会組織です。

現在では、会員数も600名を超え、卒塾生同士やKAIL内外のコミュニティでの交流を通じて、同窓会の枠を超えた多彩な活動を展開しています。

碧樹会はそうした活動のバリュー(価値観・判断基準)として、《学びの場の継続》、《人的ネットワークの深化》、《社会への恩返し》の3つを掲げています。

近年は、新型コロナによりオンラインでの活動が制限されていますが、卒塾生自身が講師となる勉強会「サロンde寺子屋」を毎月、オンラインで開催し、会員同士が切磋琢磨を続けています。

また、SDGsに関するワークショップなどのイベント実施や、筑紫女学園大学や九州工業大学の講座を担当し、学生とのディスカッションを重ねるなどして、会員同士のタテ・ヨコ・ナナメの関係を構築するとともに、未来の社会へ少しでも貢献できるよう取り組んでいます。

KAILは、2024年に20周年を迎えます。碧樹会も、今後、ますます大きな『碧樹の森』となって新たなステージへと進むべく、一人ひとりがそれぞれのリーダーシップを発揮してまいります。

皆さまのご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願ひいたします。

## 派遣実績

### 派遣企業・団体一覧(第1~18期)

#### 建設業

- ・株式会社井口工務店
- ・株式会社池田工業
- ・大橋エアシステム株式会社
- ・門田建設株式会社
- ・九鉄工業株式会社
- ・株式会社九電工
- ・西部ガス設備工業株式会社
- ・株式会社佐電工
- ・株式会社地工
- ・日九興産株式会社
- ・株式会社北洋建設
- ・松尾建設株式会社
- ・松田都市開発株式会社
- ・三桜電気工業株式会社

#### 製造業

- ・麻生セメント株式会社
- ・株式会社大島造船所
- ・キューサイ株式会社
- ・株式会社キューヘン
- ・協和機電工業株式会社
- ・コカ・コーラウエスト株式会社  
(現 コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社)
- ・三友機器株式会社
- ・昭和鉄工株式会社
- ・株式会社正興電機製作所
- ・株式会社西部技研
- ・大日本印刷株式会社
- ・株式会社DNP西日本
- ・トヨタ自動車九州株式会社
- ・日産自動車株式会社
- ・日本サプリメント株式会社
- ・パナソニックコミュニケーションズ株式会社  
(現 パナソニックシステムネットワークス株式会社)
- ・久光製薬株式会社
- ・株式会社日立製作所
- ・株式会社ふくや
- ・株式会社フランソア
- ・マサル工業株式会社
- ・三菱重工業株式会社
- ・三菱日立パワーシステムズ株式会社

#### 電気・ガス

- ・九州電力株式会社
- ・西部ガス株式会社

#### 情報通信業

- ・エコー電子工業株式会社
- ・株式会社NTTドコモ
- ・株式会社NTTドコモ九州(現 株式会社NTTドコモ)
- ・株式会社九州テレ
- ・株式会社QTnet
- ・株式会社QTmedia
- ・九電ビジネスソリューションズ株式会社
- ・株式会社ぐるなび

- ・株式会社ゼンリン
- ・株式会社ティーアンドイー
- ・株式会社ドコモCS九州
- ・株式会社ピーイング

#### 運輸

- ・九州旅客鉄道株式会社
- ・久留米運送株式会社
- ・第一交通産業株式会社
- ・西鉄タクシーホールディングス株式会社
- ・西日本鉄道株式会社
- ・福岡北九州高速道路公社

#### 卸売・小売

- ・麻生商事株式会社
- ・株式会社アトル
- ・イオン九州株式会社
- ・株式会社イバロジャパン
- ・株式会社健康家族
- ・コクヨ九州販売株式会社  
(現 コクヨマーケティング株式会社)
- ・株式会社SEEDホールディングス
- ・JR九州リテール株式会社
- ・新光石油株式会社
- ・総合メディカル株式会社
- ・株式会社ナフコ
- ・株式会社西鉄ストア
- ・株式会社ノムラ
- ・株式会社フォレストホールディングス
- ・福岡トヨタ自動車株式会社
- ・株式会社ベスト電器
- ・増田石油株式会社
- ・株式会社ミズ
- ・株式会社夢創作
- ・株式会社やすや
- ・株式会社山口油屋福太郎

#### 金融

- ・株式会社北九州銀行
- ・三洋信販株式会社
- ・株式会社筑邦銀行
- ・株式会社西日本銀行  
(現 株式会社西日本シティ銀行)
- ・株式会社西日本シティ銀行
- ・株式会社肥後銀行
- ・株式会社福岡銀行
- ・株式会社福岡シティ銀行  
(現 株式会社西日本シティ銀行)
- ・株式会社ふくおかファイナンシャルグループ
- ・株式会社福岡リアルティ
- ・前田証券株式会社(現 ふくおか証券株式会社)
- ・株式会社山口銀行
- ・株式会社山口ファイナンシャルグループ

#### 不動産・物品賃貸

- ・麻生開発株式会社(現 株式会社麻生)
- ・株式会社九州リースサービス

計140団体(業種別50音順)

- ・コンダクト株式会社

- ・シビーアールイー株式会社
- ・株式会社トヨタレンタリース福岡
- ・西鉄不動産株式会社
- ・ニッポンインシア株式会社
- ・日鉄興和不動産株式会社
- ・株式会社日本メディカルプロパティマネジメント
- ・野村不動産株式会社
- ・福岡地所株式会社
- ・株式会社プラスサムジャパン
- ・株式会社ミクニ
- ・株式会社三好不動産

#### 専門・技術サービス

- ・有限責任あづさ監査法人
- ・株式会社オフィスプレイン
- ・株式会社ジーコム
- ・株式会社中亜ビジネスセンター
- ・株式会社電通九州
- ・有限責任監査法人トーマツ
- ・株式会社特殊高所技術

#### 宿泊

- ・麻生開発マネジメント株式会社
- ・グランドハイアット福岡
- ・JR九州ホテルズ株式会社

#### 旅行

- ・株式会社JTB
- ・株式会社JTB九州(現 株式会社JTB)

#### 教育

- ・学校法人麻生塾
- ・久留米大学
- ・学校法人筑紫女学園

#### 医療・福祉

- ・株式会社アンジュプラン
- ・株式会社麻生
- ・医療法人CLSすがはら
- ・社会福祉法人年長者の里
- ・福岡労働衛生研究所
- ・社会福祉法人保誠会
- ・株式会社保健支援センター

#### サービス

- ・株式会社アソウ・ヒューマニーセンター
- ・セコム株式会社
- ・株式会社美光
- ・福岡商工会議所
- ・福高観光開発株式会社
- ・三井住友海上火災保険株式会社

#### 自治体

- ・北九州市
- ・佐賀県
- ・長崎県
- ・福岡県
- ・福岡市

# 資料編

## セッション講師の方々

### 第1～18期

青木 麗子	有限会社DLC日中ビジネスコンサルティング 代表取締役社長	齋藤 顕一	株式会社フォアサイト・アンド・カンパニー 代表取締役
有馬 利男	富士ゼロックス株式会社 相談役 特別顧問	最首 英裕	株式会社グルーヴノーツ 代表取締役社長
安藤 佳則	A.T.カーニー株式会社 顧問	三枝 匡	株式会社ミスミグループ本社 代表取締役社長兼CEO
石井 正純	AZCA Inc. 代表取締役社長／静岡大学大学院客員教授	榎原 英資	慶應義塾大学 教授／
石原 信行	知力経営研究所 代表／日経ビジネススクール講師／ 早稲田大学エクステンションセンター講師／ 富士通研究所テクノロジーマーケティング講師／ 元本田技術研究所取締役	澤田 豊治	同大学グローバルセキュリティリサーチセンター ディレクター
石原 正雄	ラスマセンアカデミー校長	繁田 奈歩	一般社団法人日本シンガポール協会 顧問
出馬 幹也	フロネシス・インスティテュート株式会社 代表取締役	柴田 昌治	株式会社スコラ・コンサルト プロセスデザイナー代表
泉田 雅典	キャリパージャパン株式会社 代表取締役	下村 芳弘	株式会社KSJコーポレーション 代表取締役社長
伊藤 正裕	株式会社ヤッパ 代表取締役社長	出頭 則行	九州大学ビジネススクール 教授／株式会社電通 顧問
伊藤 元重	東京大学大学院経済学研究科 教授	末吉 紀雄	コカ・コーラウエスト株式会社 代表取締役会長
井上 潤吾	ボストンコンサルティンググループ マネージング・ディレクター&シニア・パートナー	関口 康	ヤンセンファーマ株式会社 代表取締役社長
今里 滋	同志社大学大学院総合政策科学研究科 教授	瀬口 清之	一般財団法人 キヤソングローバル戦略研究所 研究主幹
今村 寛	福岡市経済環境文化局 創業・立地推進部長	高木 直人	財団法人九州経済調査協会 常務理事
岩井 琢磨	株式会社顧客時間 共同CEO	高橋 俊介	慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究院 特任教授
魚谷 雅彦	株式会社ブランドヴィジョン 代表取締役社長	瀧 春樹	知力経営研究所 シニアフェロー／ 早稲田大学エクステンションセンター講師／ 日本メンズファッション協会常任理事
梅崎 健理	株式会社ディグナ 代表取締役	田口 佳史	株式会社イメージプラン 代表取締役社長／ 日本家庭教育協会 理事長
江崎 浩	東京大学大学院 情報理工学系研究科 創造情報学専攻 教授	武石 彰	一橋大学イノベーション研究センター 教授
遠藤 功	株式会社ローランド・ベルガー 会長	武内 和彦	東京大学サステイナビリティ学連携研究機構(IR3S) 副機構長
大上 二三雄	エム・アイ・コンサルティンググループ株式会社 代表取締役	立石 寿雄	ネクスト・キャピタル・パートナーズ株式会社 代表取締役社長
大滝 令嗣	早稲田大学ビジネススクール 客員教授	田中 能之	デュポンアジアパシフィック 半導体パッケージ・ 回路材料事業 グローバル・ビジネス・ディレクター
大中 忠夫	名古屋商科大学大学院 教授／ 株式会社グローバル・マネジメント・ネットワークス 代表取締役	田中 守	キャリパーコーディングカレッジ株式会社 執行役社長
岡留 健一郎	社会福祉法人恩賜財団済生会 福岡県済生会福岡総合病院 院長	谷 隆一郎	九州大学大学院人文科学研究院 教授
小川 勇人	株式会社小川の家 代表取締役	田村 馨	福岡大学商学部 教授
奥村 裕一	アジア経済研究所 理事	田村 大	株式会社リ・パブリック 共同代表
小野寺 浩	鹿児島大学 教授	塙田 高明	鹿島建設株式会社 執行役員環境本部長
折口 雅博	プロードキャピタル・パートナーズ株式会社 CEO	筒井 豊春	キャピタル・パートナーズ証券株式会社 代表取締役社長兼CEO
影山 正	クロール・インターナショナル・インク東京支社 支社長 リージョナル・マネジング・ディレクター 日本・韓国	富山 和彦	株式会社経営共創基盤 代表取締役CEO
唐池 恒二	九州旅客鉄道株式会社 取締役鉄道事業本部営業部長	中島 豊	中央大学大学院戦略経営研究科 客員教授
河合 美宏	東京大学公共政策大学院 教授	中竹 竜二	日本ラグビー フットボール協会 コーチングディレクター
関 志雄	株式会社野村資本市場研究所 シニアフェロー／ 独立行政法人経済産業研究所 コンサルティングフェロー	鍋山 徹	株式会社日本政策投資銀行 産業調査部 チーフエコノミスト
北澤 尚明	株式会社日立総合経営研修所 グローバルタレントディベロップメント部 ビジネスパートナーグループ 部長代理	西田 明紀	福岡地域戦略推進協議会フェロー／ 久留米信愛女学院短期大学講師／キャリアカウンセラー
久原 正治	九州大学経済学研究院 教授	西山 茂	早稲田大学ビジネススクール 教授／公認会計士
桑畠 英紀	株式会社イマージェンス 代表取締役社長	野田 智義	特定非営利活動法人アイ・エス・エル 理事長
小杉 俊哉	合同会社 THS経営組織研究所 代表社員／ 慶應義塾大学大学院理工学研究科 特任教授／ 立命館大学大学院テクノロジー・マネジメント研究科 客員教授	野津 浩嗣	株式会社アニメートエンタープライズ 代表取締役 AEグループCEO
小寺 圭	株式会社リアル・フリート 会長	野村 るり子	株式会社ホーリス 代表取締役社長／教育コンサルタント
後藤 太一	リージョンワークス合同会社 代表社員	野呂 理	野呂理事務所 代表
小林 知巳	エム・アイ・アソシエイツ株式会社 ディレクター	蓮沼 孝	株式会社ロバート・ラスムセン・アソシエイツ 代表取締役
是久 洋一	パナソニック コミュニケーションズ株式会社 取締役	葉玉 匡美	元東京地方検察庁特捜部検事／ TMI総合法律事務所 弁護士
		服部 暁達	一橋大学大学院国際企業戦略研究科 客員助教授
		早嶋 聰史	ビズナビ&カンパニー 代表取締役社長
		樋口 龍二	特定非営利活動法人まる 代表理事

平野 正雄 早稲田大学ビジネススクール 教授  
 橋渡 啓祐 橋渡社中株式会社 Founder&CEO／前佐賀県武雄市長  
 深川 哲也 クレセント・パートナーズ マネージング・ディレクター  
 福岡 政行 白鷗大学法学部 教授／立命館大学 客員教授  
 福島 広造 ポストンコンサルティンググループ プリンシパル  
 藤原 和博 教育改革実践家／杉並区立和田中学校 元校長／元リクルートフェロー  
 古川 久敬 九州大学大学院人間環境学研究院 教授  
 古田 龍助 熊本学園大学商学部経営学科 教授  
 逸見 光次郎 オムニチャネルコンサルタント  
 星野 裕志 九州大学大学院経済学研究院 教授  
 本田 桂子 前世界銀行グループ 長官CEO  
 本間 浩輔 ヤフー株式会社 取締役常務執行役員  
 コーポレート統括本部長  
 松井 孝典 東京大学大学院新領域創成科学研究科 教授  
 松岡 恭子 株式会社スピングラス・アーキテクツ 代表取締役  
 松丘 啓司 エム・アイ・ソシエイツ株式会社 代表取締役社長  
 松本 孝利 ビジネス・ブレークスルー大学大学院経営学研究科  
 専任教授  
 松本 まゆみ ヤマト運輸株式会社 岩手主管支店 営業企画課 課長  
 松山 秀雄 企業創房有限会社 代表取締役  
 丸山 幸伸 株式会社日立製作所 デザイン本部 主管デザイナー  
 味酒 安則 太宰府天満宮 櫛宣／  
 総務統括部長兼文化研究所主管学芸員  
 三谷 宏幸 ノバルティスファーマ株式会社 代表取締役社長

宮入 小夜子 株式会社スコラ・コンサルト パートナー・プロセスデザイナー  
 宮崎 陽世 株式会社ヒューマンサイエンスプロー 代表取締役社長  
 宮脇 彰秀 ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社  
 メディカルカンパニー シニアバイスプレジデント  
 武藤 真祐 祐ホームクリニック 院長  
 ムハマド・ユヌス ノーベル平和賞受賞者／グラミン銀行創設者  
 安井 秀行 株式会社方円社 代表取締役社長  
 安浦 寛人 九州大学 理事・副学長、工学博士・教授  
 安田 洋祐 大阪大学大学院経済学研究科 准教授  
 矢田 俊文 北九州市立大学 学長  
 矢野 朝水 厚生年金基金連合会 専務理事  
 山折 哲雄 宗教学者  
 山崎 康司 隅コンサルティングオフィス株式会社 代表  
 山崎 博代 絵本セラピスト  
 山崎 政男 TOTO VIETNAM Co., Ltd General Director  
 山本 高史 株式会社電通 クリエーティブディレクター  
 横瀬 勉 慶應義塾大学SFC研究所 上席研究員／  
 国際大学大学院ビジネススクール 非常勤講師  
 横山 稔徳 社会システムズ・アーキテクト／東京大学エグゼクティブ・  
 マネジメント・プログラム(東大EMP)企画推進責任者／  
 県立広島大学経営管理研究科(HBMS) 研究科長  
 渡辺 京二 作家  
 渡邊 さやか 一般社団法人リテラ 代表理事  
 渡邊 弘敦 高野山真言宗南福寺 住職  
 渡邊 正和 有限会社エフアールジェイコンサルティング 代表取締役

## 寺子屋式リーダーシップ対話講師の方々

### 第1～18期

明石 博義 特定非営利活動法人九州・アジア経営塾  
 理事長兼塾長  
 秋池 玲子 ポストン コンサルティンググループ  
 ヴァイス・プレジデント ディレクター  
 麻生 泰 一般社団法人九州経済連合会 会長／  
 株式会社麻生 代表取締役会長／  
 麻生セメント株式会社 代表取締役会長  
 麻生 渡 福岡県知事  
 有馬 利男 一般社団法人グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン代表理事  
 安藤 忠雄 建築家  
 伊佐山 建志 日産自動車株式会社 代表取締役副会長  
 石原 進 九州旅客鉄道株式会社 取締役会長  
 一丸 陽一郎 トヨタ自動車株式会社 専務取締役  
 井上 輝一 トヨタ自動車株式会社 顧問  
 岩崎 宏達 三岩グループ 代表  
 岩元 美智彦 日本環境設計株式会社 取締役会長  
 宇田 左近 ビジネス・ブレークスルー大学 副学長 経営学部長  
 占部 憲志 学校法人中村学園 中村学園大学 教育学部 教授  
 江村 林香 株式会社エアトランセ 代表取締役会長兼社長  
 尾家 祐二 九州工業大学 学長

王 貞治 福岡ソフトバンクホークス 監督  
 大竹 美喜 アメリカンファミリー生命保険会社 創業者・最高顧問  
 大谷 賢二 一版財団法人カンボジア地雷撤去キャンペーン 理事長  
 大西 賢 日本航空株式会社 代表取締役会長  
 大野 陽男 カルソニックカンセイ株式会社 名誉顧問  
 大星 公二 株式会社NTTドコモ シニアアドバイザー  
 大籟 崇 株式会社エイトワン 代表取締役社長  
 岡野 博一 株式会社岡野 代表取締役  
 小川 勇人 株式会社小川の家 代表取締役  
 北川 正恭 早稲田大学 名誉教授／元三重県知事  
 小島 希世子 特定非営利活動法人農スクール代表  
 小山田 浩定 総合メディカル株式会社 代表取締役会長  
 加治 敬通 株式会社ハローデイ 代表取締役社長  
 梶山 千里 九州大学 総長  
 包行 均 株式会社筑水キャニコム 代表取締役会長  
 包行 良光 株式会社筑水キャニコム 代表取締役社長  
 蒲島 郁夫 熊本県知事  
 鎌田 恭幸 鎌倉投信株式会社 代表取締役社長  
 鎌田 迪貞 社団法人九州・山口経済連合会 会長

※敬称略。 ※ご所属およびお役職は、ご登壇時のものです。

# 資料編

## ■ 寺子屋式リーダーシップ対話講師の方々

### 第1～18期

鎌田 由美子	カルビー株式会社 上級執行役員、事業開発本部長	為末 大	一般社団法人アスリートソサエティ 代表理事
上東 純	Nichirei Suco Vietnam CO. LTG 代表取締役社長	筑紫 哲也	ジャーナリスト
カルロス・ゴーン	日産自動車株式会社 社長兼最高経営責任者	張 富士夫	トヨタ自動車株式会社 取締役会長
川口 加奈	認定NPO法人 Homedoctor 理事長	辻野 晃一郎	アレックス株式会社 代表取締役社長兼CEO
河邊 哲司	株式会社久原本家グループ本社 代表取締役社長	出口 治明	立命館アジア太平洋大学(APU) 学長
川邊 義隆	株式会社八ちゃん堂ベトナム 代表取締役社長	遠山 正道	株式会社スマイルズ 代表取締役会長
川村 治夫	キャス・キャピタル株式会社 代表取締役	朝長 正道	公益財団法人 臨床研究奨励基金 理事長／医療法人 親愛 理事長
カワノ・スタント	早稲田大学 国際学術院 教授	内藤 由治	株式会社ポッカコーポレーション 取締役会長
姜 尚中	早稲田大学 臨床教育科学研究所 所長	中島 宏	陶芸家、2007年度重要無形文化財保持者
北川 正恭	東京大学大学院情報学環・学際情報学府 教授	中竹 龍二	日本ラグビー フットボール 協会 コーチングディレクター
木村 伊量	早稲田大学大学院公共経営研究科 教授／	中村 史郎	日産自動車株式会社 常務取締役デザイン本部長
久保田 勇夫	前三重県知事	中村 哲	医師／PMS(ピース・ジャパン・メディカル・サービス=平和医療団日本)院長／ペシャワール会現地代表／
隈 扶三郎	朝日新聞西部本社 代表	中原 健聰	日本土木学会会員／農業土木技術管理士
巖 浩	ローン・スター・ジャパン・アクイジションズ・LCC 会長	浪江 章一	認定特定非営利活動法人 Teach for Japan
小杉 俊哉	株式会社西部技研 代表取締役社長	新浪 剛史	代表理事・CEO
小林 いずみ	イーピーエス株式会社 代表取締役社長	西 太一郎	エースコック株式会社 経営顧問
小宮 一慶	慶應義塾大学大学院理工学研究科 特任教授	野村 文吾	株式会社ローソン 代表取締役社長CEO
最首 英裕	メリルリンチ日本証券株式会社 代表取締役社長	橋田 紘一	三和酒類株式会社 取締役名誉会長
税所 篤快	株式会社小宮コンサルタンツ 代表取締役	長谷川 琢也	十勝バス株式会社 代表取締役社長
斎藤 悟	株式会社グルーヴノーツ 代表取締役社長	服部 匡志	株式会社 九電工 相談役／
前刀 賢明	国際教育支援NGO「e-Education」創業者	浜田 敬子	特定非営利活動法人 九州・アジア経営塾
佐々木かをり	株式会社東京証券取引所グループ 取締役兼代表執行役社長	浜田 宏	理事長兼塾長
佐々木 常夫	株式会社リアルデイア 代表取締役／	長谷川 琢也	ヤフー株式会社 復興支援室／
椎名 武雄	元アップルコンピュータ株式会社 代表取締役 兼	浜野 安宏	一般社団法人 フィッシュヤーマン・ジャパン
志岐 宣幸	Apple Computer, Inc.	濱松 誠	ITサービス事業部長
四島 司	マーケティング担当バイスプレジデント	原口 兼正	日本国際眼科病院 教授／
篠原 統	株式会社イー・ウーマン 代表取締役社長	樋口 武男	アジア失明予防の会 事務局長
濵澤 健	第一施設工業株式会社 代表取締役社長	廣瀬 俊朗	BUSINESS INSIDER JAPAN 総括編集長／
島田 晴雄	シブサワ・アンド・カンパニー株式会社 代表取締役	濱野 安宏	AERA 前編集長
末延 則子	千葉商科大学 学長 慶應義塾大学 名誉教授	濱野 宏	株式会社リヴァンプ 代表パートナー／
末吉 興一	ポーラ・オルビスホールディングスマルチプルインテリジェンス	濱野 安宏	元デル日本法人 社長兼本社副社長
末吉 紀雄	リサーチセンター 所長・執行役員	濱野 安宏	株式会社浜野総合研究所 代表取締役社長
杉田 亮毅	外務省参与 前北九州市長	濱野 安宏	One Panasonic 発起人・代表／
鈴木 一郎	コカ・コーラウエスト株式会社 代表取締役会長	原口 兼正	ONE JAPAN 共同発起人・代表
孫 正義	公益社団法人 日本経済研究センター 会長／	樋口 武男	株式会社セコム 代表取締役社長
高見 邦雄	株式会社日本経済新聞社 元会長	廣瀬 俊朗	大和ハウス工業株式会社
田上 富久	HIRO FOOD PACKAGES MANUFACTURING	廣瀬 俊朗	代表取締役会長 兼 最高経営責任者
滝 久雄	SDN BHD Managing Director	樋渡 啓祐	株式会社HiRAKU 代表取締役
タクシン・シナワトラ	ソフトバンク株式会社 代表取締役社長	武 亜朋	樋渡社中株式会社 Founder&CEO／
竹延 幸雄	認定特定非営利活動法人 緑の地球ネットワーク	福地 茂雄	前佐賀県武雄市長
	事務局長	福元 満治	中華人民共和国駐福岡総領事館 総領事
	長崎県長崎市長	古川 貞二郎	日本放送協会 会長
	株式会社ぐるなび 代表取締役会長 創業者	古川 康	ペシャワール会 広報担当理事 前事務局長
	前タイ王国首相	堀 新太郎	元内閣官房副長官／
	株式会社竹延 代表取締役社長／	松田 亜有子	社会福祉法人 恩賜財団 母子愛育会 理事長
	株式会社KMユナイテッド 創業者／取締役社長	マハティール・ビン・モハマド	佐賀県知事
		マハティール・ビン・モハマド	ペインキャピタルジャパン 会長
		マハティール・ビン・モハマド	株式会社経営共創基盤 アソシエイト
		マハティール・ビン・モハマド	マレーシア首相

丸山 康幸	フェニックスリゾート株式会社 取締役会長
水口 敬司	九州ベンチャーパートナーズ株式会社 代表取締役社長
水口 啓	九州ベンチャーパートナーズ株式会社 取締役ファンドマネージャー
溝畠 宏	国土交通省 観光庁長官
蓑 豊	サザビーズ北米本社 副会長／金沢21世紀美術館 特任館長／大阪市立美術館 名誉館長
向井 昭吾	コカ・コーラウエストジャパン株式会社 ラグビー部監督
村井 満	Jリーグ チェアマン／日本サッカー協会副会長／ 日本プロスポーツ協会理事
村岡 浩司	有限会社一平 代表取締役／MUKASA-HUB 代表
元岡 健二	株式会社ティア 代表取締役社長
百田 憲由	株式会社百田陶園 代表取締役
モンテカセム	立命館アジア太平洋大学 学長
矢頭 美世子	株式会社やすや 代表取締役会長

安岡 正泰	郷学研修所・安岡正篤記念館 理事長
山崎 広太郎	福岡市長
山崎 大祐	株式会社マザーハウス 取締役副社長
山田 貴子	株式会社ワクワーカ・イングリッシュ代表取締役／ 慶應義塾大学特任助教
山本 一力	作家
横山 研治	立命館アジア太平洋大学 副学長
吉村 拓二	株式会社紅乙女酒造 取締役社長
龍造寺 健介	本多機工株式会社 代表取締役社長
渡邊 嘉英	アクセンチュア株式会社 素材・エネルギー本部 マネジングディレクター
工藤 勇一	横浜創英中学校・高等学校 校長
佐伯 夕利子	Jリーグ 元常任理事
細尾 真孝	株式会社細尾 代表取締役社長

※敬称略。 ※ご所属およびお役職は、ご登壇時のものです。

## KAILの新型コロナウィルス感染拡大予防対策

KAILでは皆さんに安心して受講いただけるよう、感染拡大予防に徹底して取り組んでいます

### 受講時の感染予防に努めています（感染・濃厚接触者、37.5度以上の発熱者は入室お断り）

オンライン選択受講	塾生/スタッフの体調管理の徹底	塾生/スタッフの常時マスク着用	検温サーモカメラの設置
集合研修と選択自由派遣元企業の指示や体調不良時にも対応	過去2週間の体調、前日と当日の検温結果と体調をメールで確認	講師もマスクやフェイスシールドを着用	発熱時警告とともにマスク未着用時も警告
各所への消毒液・消毒シートの設置	座席の離隔確保	机上パーテーションの設置	受講会場の常時換気
出入口での手指消毒や機器使用後の消毒	講師との対話時の隣席との離隔確保一人用机の導入	グループ対話時の飛沫拡散を防止	出入口を常に開放

### 業務運営上の感染予防に努めています（上記掲載以外）

スタッフの出勤頻度低減	会議や打合せのオンライン開催	オンラインを介した対話と情報の共有	スタッフ以外の事務所入室制限
テレワーク勤務や時差出勤を実施	講師など関係者との調整にもオンライン会議ツールを利用	スタッフ間の報告・連絡・相談や情報共有にSlackを利用	アルムナイ活動にはオンライン会議ツールを提供しサポート

### 万が一の事態に備えています

緊急事態宣言発出時の対応	感染（濃厚接触）者が発生した時の対応
全てのセッション、プログラムをオンライン開催に切り替え ・出勤スタッフを最低限に抑制 ・スタッフの出張や業務上の外出を停止	・KAIL入室者に感染（濃厚接触）者を確認した時は、その人物が最後に入室した日から14日目まで事務所を閉鎖（立入禁止） ・閉鎖期間中のプログラムは、全てオンラインで開催 ・閉鎖期間中、スタッフはテレワークで勤務 ・感染（濃厚接触）者は、保健所の指導に従い療養、自宅待機

人財の森をつくる。



THE KYUSHU-ASIA INSTITUTE OF LEADERSHIP

特定非営利活動法人 九州・アジア経営塾

〒810-0004 福岡市中央区渡辺通2-1-82 電気ビル共創館7階  
TEL:092-726-1861 FAX:092-726-1869  
E-mail:info@kail.jp URL:<http://www.kail2004.jp/>

碧樹館プログラムの最新情報は、広報誌KAILレポートでご覧頂けます。

詳しくは、下記のアドレスまで。

寺子屋式リーダーシップ対話、碧樹会活動（各地で活躍する卒塾生の近況報告）  
など多彩な情報を取り揃えて発信しています。

<http://www.kail2004.jp/>

※KAILレポートの閲覧には、IDとパスワードが必要です。

ホームページよりお申し込みください。

